



各報道機関担当記者 殿

## 実験ルートが10倍に拡充 珠洲・自動運転プロジェクトがさらに加速！

日頃から、本学の教育研究活動に係る報道等にご協力いただきありがとうございます。

今年2月から金沢大学と石川県珠洲市が連携して実施している普通乗用車型の自律型自動運転自動車（高度有人運転支援システム搭載）を用いた市街地における日本初の社会的実証実験については、順調に進展し研究成果も蓄積してきました。

このたび、より研究開発を加速させるため、実験ルートについて、関係機関と調整の上、さまざまな道路環境・交通状況に即した4コースを新たに設定し、従来の約6kmから10倍近い延べ約60kmへ拡充することとなりました。

自動走行システムの研究開発において、実際の市街地・公道を約60kmも用いて実証実験に取り組む事例は、わが国では他に類例のないものとなります。

ついでには、下記のとおり、「珠洲市地域公共交通活性化協議会」内で現地市民向け説明を行うとともに、新ルートの拡充について記者発表を行いますので、当日の取材・報道をお願いいたします。

記

日時：平成27年10月27日(火)  
報道各社受付 14時15分～  
記者発表・懇談 14時30分～15時15分  
珠洲市地域公共交通活性化協議会内での説明 15時30分～16時00分  
場所：すず市民交流センター 3F第5会議室  
石川県珠洲市上戸町北方1-9-2（珠洲市役所向い）  
出席者：珠洲市 泉谷 満寿裕 市長，ほか  
金沢大学 菅沼 直樹 准教授(研究主任担当者：新学術創成研究機構)

### 【本件に関するお問い合わせ】

(広報担当)  
総務部広報室  
本庄 淑子  
TEL 076-264-5024  
koho@adm.kanazawa-u.ac.jp

## 【参考】珠洲・自動走行システム実証実験プロジェクト 実験ルートの拡充について

### 1. 実験ルート拡充の趣旨

平成 27 年 2 月より開始された当実証実験は、日本初の市街地公道実験として内外の注目を大きく集めることとなった。

その後も順調に実験を積み重ねてきたが、今後、より機械工学的な有人運転支援・補助システムの技術開発促進のみならず、交通工学や財政学等の新たな見地も交えた受容性評価などにも取り組み、学際的・総合的に自動運転にかかる研究の進展を目指す必要がある。

このことから、実証実験ルートを拡充することにより、欧米メーカーとしのぎを削るわが国の自動運転技術における国際競争力の強化を図るとともに、地方創生や超高齢社会への対応の観点から奥能登地域に代表される地域課題の将来的な解決に貢献することを目指す。

### 2. 新・実験ルートの特色・ねらい

#### (1) 松波鵜島バイパスルート (約 16.6 km)

バイパスの車線合流などを含むルートで安全・円滑な合流を目指す。

#### (2) 飯田地区商店街巡回ルート (約 11.3 km)

市街地の商業施設・行政施設・病院等の巡回ルート。3つ以上の拠点間を巡回するプログラムの開発を目指す。

#### (3) すず塩田村ルート (約 20.0 km)

道の駅すずなりと道の駅珠洲塩田村を結ぶ長距離の新ルート。トンネル走行、ループルート走行などの知見を深め、複雑な道路環境での安全走行技術の高度化を目指す。

#### (4) 鉢ヶ崎・三崎ルート (約 12.1 km)

将来的に、珠洲の中心地区ー郊外地区を結ぶ地域公共交通機関としての活用も想定し社会実装に向けた課題を抽出する。